

タウト塾@熱海 2022

熱海
温泉療養施設

きゅうきかん

噓汽館

令和4年度

05



- 日本初
温泉療養施設
- 建設の背景
- 大湯間欠泉
- 熱海御用邸
- 温泉取扱書
- 気象観測所
- 熱海図書館
- 熱海梅園

熱海ブルーノ・タウト連盟

タウト塾@熱海 2022 オンライン講座

ABTL

1

KYUKIKAN

日本初の温泉療養施設



明治初頭、熱海に静養していた岩倉具視の意向で建設された宮内省の施設で、熱海温泉のシンボルである大湯間欠泉の蒸気を使った、日本で初めての温泉療養医学センター（温泉療養施設）ともいえるべきものです。

熱海ブルーノ・タウト連盟

タウト塾@熱海 2022 オンライン講座

ABTL

2

KYUKIKAN

御用邸の竣工



並行して大正天皇の療養のための「熱海御用邸」が大湯・嶗瀧館に程近い土地を所有していた岩崎彌太郎より宮内省に献納されて1889年（明治22年）6月に竣工しました。

KYUKIKAN

市外電話の設置



活気ある当時の世情の中、熱海には多くの政治家や政府高官が保養や会談のために訪れたことから、東京との連絡を取るために、1889年（明治22年）1月1日には、東京～熱海間で日本最初の市外電話が敷かれたほどでした。

KYUKIKAN

伝染病の発生と蔓延



「虎列刺退治」

コレラを「虎・頭」「狼・胴」「狸・鞆丸」に模したもの。衛生隊がこの化け物に消毒薬を噴霧している。

幕末維新时期以降、開港による諸外国との交流の進展に伴い、コレラや赤痢といった伝染病が海外から流入した人々により大流行を引き起こしました。それは、中央部のみならず、公衆衛生の不十分な温泉地にも伝染病が強く影響を及ぼしていました。1870年代終わりから80年代初頭にかけては、日本各地でコレラが大流行し衛生観念の転換が求められ、活況に沸く近代の熱海においても同様でした。

熱海ブルーノ・タウト連盟

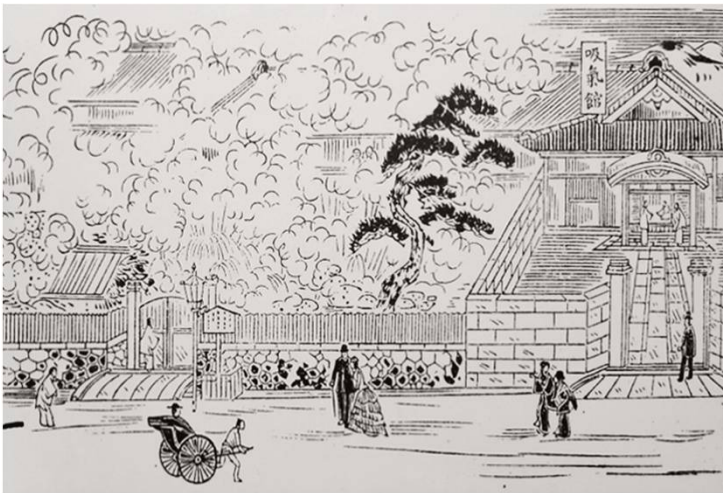
タウト塾@熱海 2022 オンライン講座

ABTL

5

KYUKIKAN

噓氣館の誕生



岩倉具視は、様々なインフラ整備、設備改良の必要性を感じ衛生局長の長与専齋、宮内省の肥田らを動員し、1885年6月、宮内省の施設として大湯の傍らで建設をはじめ、翌1885（明治18）年に開館を果たしました。「噓氣館」の誕生でした。長与専齋は、西洋の様々な文化、医学を「衛生」という概念で導入。温泉医学、保養地という考えのもとに抜本改革を果たしました。そして噓氣館完成の翌年には健康保養公園である「熱海梅園」を完成させ日本の温泉保地の芽生えを造りました。

熱海ブルーノ・タウト連盟

タウト塾@熱海 2022 オンライン講座

ABTL

6

KYUKIKAN

岩倉具視



岩倉具視

1825～(58)～1883

幕末・明治初期の政治家

公卿出身。尊王討幕派と結び王政復古のクーデタを成功。明治新政府の参与・右大臣などの要職を歴任し、1871年全権大使として欧米を視察した。帰国後は征韓論に反対し自由民権運動を抑え天皇制を擁護し皇室財産の充実に努力した。唹瀛館の構想をもち、長与専齋等を登用し、西欧視察させるななど、唹瀛館建設に大きく貢献したが、竣工前に58歳でこの世を去った。

KYUKIKAN

長与専齋



長与専齋

1838～1902.

医学者。日本における西洋医学の先駆者。緒方洪庵の門に入り、蘭学、医学を修めたのち、長崎でオランダ人医師 J.L.C. ポンベ、C. マンスフェルトらについて蘭方を学ぶ。長崎医学校学頭となるも明治4(71)年文部省に入り、欧米を回って医学教育、医事行政を視察、帰国して文部省医務局長となり、医制を制定した。その後内務省初代衛生局長となり唹瀛館、熱海梅園に大きく貢献した。

KYUKIKAN

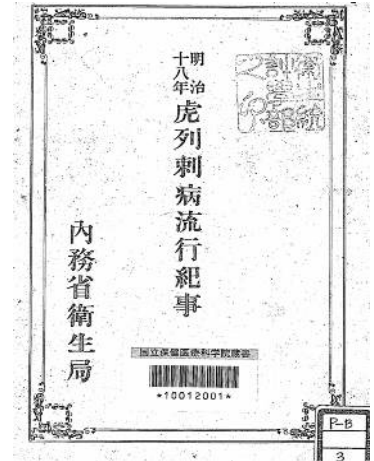
北里柴三郎



北里柴三郎

1853 - 1931

明治-昭和時代前期の細菌学者。「日本の細菌学の父」といわれる。明治18年ドイツに留学,コッホに師事。破傷風菌の純粋培養,破傷風の血清療法、香港でペスト菌を発見。その間の25年私立伝染病研究所を設立。大正3年北里研究所を創設。北里氏の論文に注目していた衛生局長の長与専斎の応援により、衛生局東京試験場で実験医学の研究に取り組み、当時の感染症対策に多きく貢献した。



KYUKIKAN

今井半太夫 熱海の本陣の主人



天保元年 今井半太夫の湯店と一碧楼

代々に渡る名主・今井半太夫家

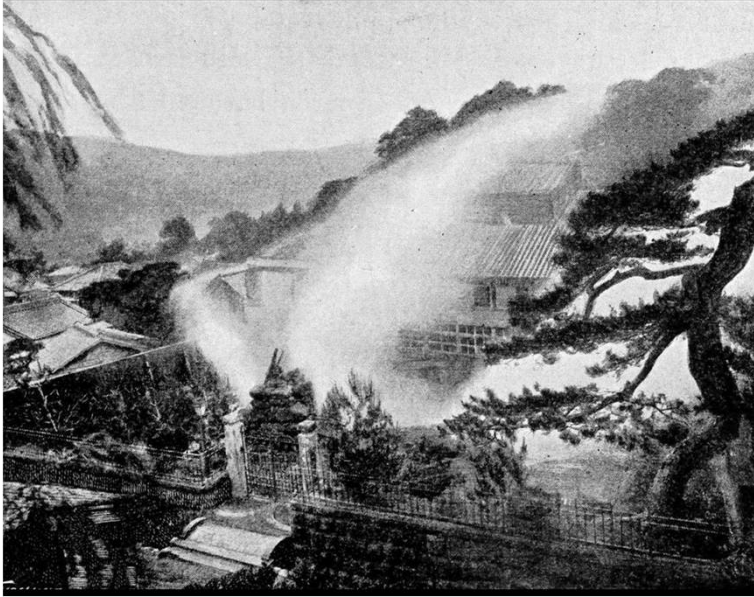
江戸時代の熱海温泉の様子を語る上で代々に渡る名主・今井半太夫家は、それぞれの時代で卓越したリーダーシップを発揮して熱海に貢献した。

時には村人の窮状を救い、時として熱海温泉の産業を開発している。

熱海温泉を誇りある観光地とし、全国一の温泉保養地としての名を知らしめた家柄であった。

KYUKIKAN

噺瀧館の源 大湯間欠泉



噺瀧館は、熱海温泉の原点である「大湯間欠泉」あつてのもので、その積極的な活用に始まりしました。世界三大間歇泉とまで謳われ、江戸時代には一日に8回噴出していた大湯間歇泉は、1884年（明治17年）には一日6回にまで数を減らしてはいたもののその活用には十分なものでした。

熱海ブルーノ・タウト連盟

タウト塾@熱海 2022 オンライン講座

ABTL

11

KYUKIKAN

噺瀧館と熱海御用邸



THE DETACHED PALACE, OF ATAMI JAPAN.

邸 用 御 海 熱

噺瀧館の施設は宮内省の管轄とされ、あわせて熱海御用邸の建設と一体となつてのものでした。

そんなことから噺瀧館と御用邸は大湯の近くに造られました。噺瀧館は、今井半太夫本陣があつた場所で、1880年代初頭に今井が献納した土地に建設されました。

噺瀧館の設置から四年後、御用邸は完成し両施設は御料地に組み込まれました。

熱海ブルーノ・タウト連盟

タウト塾@熱海 2022 オンライン講座

ABTL

12

KYUKIKAN

浴医局



初代神内浴医長の訳書
『医家袖宝』の広告
(読売新聞 1881年9月11日付)

熱海温泉の旅館らによる1883年に策定された「熱海温泉場営業人申合規則」には、「浴医局」をもうけ「浴医」が定められ常駐し、診療と処方にあたり、浴室では症状に応じた入浴療法も施されました。また、七日間一廻りとして「湯銭」徴収し温泉地管理等の経費に使用されました。

KYUKIKAN

温泉取締所



急激な源泉開発・利用の進展に伴い、温泉の枯渇など様々な問題が顕著になる中、静岡県は1884（明治17）年に温泉開発に関する温泉場取締規則を制定し、開発と私有化に一定の規則を定めました。その管理を行う「温泉取締所」に噺瀧館が建てられました。そしてその係には今井半太夫、石渡喜右衛門が任命されました。

「温泉取締所」は温泉宿の浴客から徴収した温泉料で温泉場の整備や改善、衛生管理などを行ないました。

KYUKIKAN

吸人療法による療養施設



噓氣館は入浴施設ではなく、主に肺病患者への吸人療法による療養施設として運営され、間欠泉であった大湯の蒸気を利用し室内での温泉蒸気を吸人するというものでした。大湯が沸騰する度。その蒸気を館内の吸気室に導き。患者はその部屋にパイプをつけて蒸気を吸入し治療しました。館内の浴医局には、浴医長一人、職員数人をおいて各温泉宿に在浴せる患者の診療にあたっていました。

KYUKIKAN

転地療養施設としての噓氣館



湯 大 湯 泉 温 海 熱

温泉地などでの転地療養も行われ、多くの利用客が訪れたという。施設には加えて遊泳場やビリヤード場が併設されていた。噓氣館が発行した『保養の葉』（明治30年）には「十余坪の浴槽では厳冬の日でも自由に遊泳運動ができ、広い遊戯室には新聞や囲碁、将棋等が置かれ、庭園の運動場は様々な運動器具を完備しつつある」（要約）と記されています。

KYUKIKAN

気象観測所としての噺瀧館



噺瀧館は明治24年（1891）、温泉業者一同に払い下げられましたが、その後に気象測候所が追加義務付けられました。「去る明治26年始めて気象観測所を此地に設け、日々三回観測を実施し、其成績を静岡県沼津測候所に送り調査の材とす。」

噺瀧館内に寒暖計や湿度計、気圧計、雨量計などが設置され、気象観測が行われたのです。そして、この公表された天気や気温などは湯治場熱海の宣伝にも役立ちました。

KYUKIKAN

噺瀧館に設置された日本初の市外電話



市外通話創始の地として記念碑と明治期の電話ボックスが建つ



また、1889年1月、東京熱海間に電話線が架設され、噺瀧館と東京の中央電信局に通話所が設置され公衆電話の取り扱いを開始した。この市外通話を記念した碑が現在の大湯間欠泉脇に建てられている。

KYUKIKAN

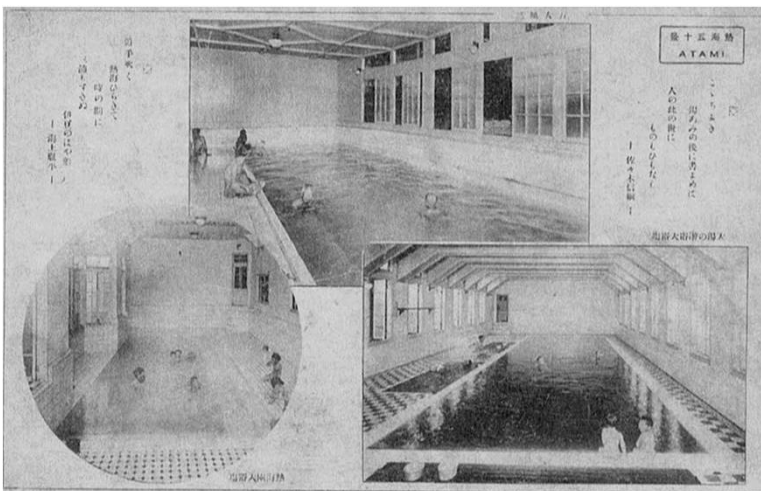
噺瀧館の温泉療養法 検診と利用効果



当初、噺瀧館の利用は無料でしたが1890年代に払い下げられて以降は費用を徴収するようになりました。加えて、『熱海に浴する人は健康と病体とを問わず必ず浴医局にたより診察を受けるをよしとす』 是れ来浴前と来浴後と体重其他一般の景況を比較し、以て入浴の効能を明かにする」と記載されるように、温泉を利用した西洋の温泉地型の新しい滞在入浴法の在り方が提唱されています。1890年代の熱海温泉の利用者は、噺瀧館の利用を必須にするなど、温泉療養地としての志向を強くしていました。

KYUKIKAN

温泉保養地学



肺病患者のための施設であった噺瀧館の建設は、熱海温泉にとって両面をもつこととなりました。一面は、噺瀧館が宮内省の施設として広く内外に知られることで、熱海温泉の良さが宣伝され全国に伝わり貢献したことです。もう一面は、肺病患者が集まりすぎイメージダウンになったことです。しかし、日本の温泉を入浴だけに留めず、衛生の概念の下に温泉医学に基づく**温泉保養地学**（クアオルトロジー）を基にしての最初の施設であることの意義は大きく、今後の熱海温泉を考えるの上で重要な要素となっています。

KYUKIKAN

噺瀧館の終焉



様々な新しい貢献をしてきた噺瀧館ですが、温泉利用の目的が保養から観光行楽に進むにつれて徐々にその存在意義が低下していきました。更にはそれに加えて大湯の沸騰による蒸気を利用していた噺瀧館は、度かさなる乱開発に伴う湧出量の極端な低下に伴いその利用は低迷していくこととなりました。

KYUKIKAN

熱海図書館 坪内逍遙



その後、1920（大正9）年に熱海尋常高等小学校にあった熱海町立図書館が噺瀧館内に移転され、以後、娯楽場をあわせた施設として運営された。1934（昭和9）年5月に火事で焼火し、再建されることなく歴史に幕を閉じることとなった。

KYUKIKAN

大湯間欠泉の終焉



枯渇した大湯は、関東大震災で奇跡的に大量の湯を噴出しましたが、その後は全く噴出することはなく、完全に止まってしまいました。今では観光用の温泉ディスプレイとなっています。

KYUKIKAN

熱海梅園



岩倉具視の発案による噺館の建設は、衛生局長である長与専齋らが手伝い、それだけでは不十分であるとした専齋は、茂木惣兵衛をスポンサーとし熱海梅園を翌年開園しました。

「噺瀧館」とその保養公園「熱海梅園」

きゅうきかん あたまばいえん
 噺瀧館と熱海梅園


岩倉具視

「温泉がよく病気に効くのは、ただその中に含まれている塩気や鉄精にばかり頼らず、適度な運動をするからである。もし、一日中室にいて、温泉に浸かっていたら飽きもし、疲れもして、養生にならない。……」

(「熱海風土記」より)



長与専斎

梅園設立の理由が熱海梅園の入り口石碑に記されています。

「温泉がよく病気に効くのは、ただその中に含まれている塩気や鉄精ばかりに頼らず、適度な運動をするからである。」というもの。治療と運動をセットで行うという西洋の温泉保養の考えを具体化したものでした。

< 噺瀧館 >

発案：岩倉具視
ドイツからの温泉療養施設

明治18年(1885)

一対

< 熱海梅園 >

発案：長与専斎(衛生局長)
出資：茂木惣兵衛、
土地提供：地元・1万坪

明治19年(1886)

噺瀧館 & 熱海梅園 年表

- 1884年(明治17年) 開業前 噺瀧館内に温泉取締所設置決定
- 1885年(明治18年) 岩倉具視の命で大湯間歇泉の隣に国内初の温泉療養施設「噺瀧館」
- 1886年(明治19年) 熱海梅園開園 長与専斎・茂木惣兵衛
- 1888年(明治21年) 噺瀧館付属地として献納、皇室付属地に編入、戦後に国有地
- 1888年(明治21年) 熱海第二御料地となる(管理は旅館組合)
- 1889年(明治22年) 熱海御用邸竣工
- 1889年(明治22年) 市外電話開設(噺瀧館内)
- 1891年(明治24年) 噺瀧館業者に払い下げ
- 1893年(明治26年) 噺瀧館内に気象観測所
- 1897年(明治30年) 保養の栞
- 1920年(大正9年) 噺瀧館内に熱海町図書館創立(坪内逍遙)
- 1924年(大正13年) 熱海第三御料地となる(管理は熱海町→熱海市)。
- 1934年(昭和9年) 噺瀧館消失
- 1945年(昭和20年) 熱海梅園 国有地となる。
- 1960年(昭和35年) 熱海梅園 無償で熱海市に払下(熱海国際観光温泉文化都市建設法)。

凡例 青色 噺瀧館
黒色 熱海梅園

ご清聴ありがとうございました。

タウト塾@熱海
2022

熱海
温泉療養施設

きゅうきかん
噺汽館

令和4年度
05



- 日本初
温泉療養施設
- 建設の背景
- 大湯間欠泉
- 熱海御用邸
- 温泉取扱書
- 気象観測所
- 熱海図書館
- 熱海梅園

